

美祢市立病院広報

第45号

平成26年10月発行

〒759-2212

山口県美祢市大嶺町東分1313番地1

日本医療機能評価機構認定病院

美祢市立病院 発行人 本間喜一

TEL 0837(52)1700 FAX 0837(52)1820

E-Mail byouin@city.mine.lg.jp

ホームページ <http://www.mine-city-hosp.jp/mineshiritsu/>



秋を感じる景色が増えてきましたね。行楽に出かけるのが楽しみです。

医師の交代

<退職> 大変お世話になりました。

脳神経外科 杉本 至健 医師 (9月30日付)

小児科 脇口 宏之 医師 (9月30日付)

<採用> よろしくお願いたします。

脳神経外科 白尾 敏之 医師 (10月1日付)

小児科 飯田 恵庸 医師 (10月1日付)

お知らせ

美祢市民を対象とした休日乳がん検診実施のお知らせ

検診対象者：40歳以上の女性で前年度未受診の方

実施日時：平成26年11月9日(日)

受付時間：午前8時30分～午前11時30分

問い合わせ・申込先：美祢市保健センター (Tel53-0304) 美祢市立病院 (Tel52-1700)

インフルエンザ予防接種

予約開始：10月1日(水)～

接種期間：10月22日(水)～2月27日(金)

予約受付：総合受付・小児科受付・事務

※ 予約制ですので、詳細については当院へ連絡されるか、総合受付へお尋ね下さい。

やまぐち地域医療セミナー2014 in 美祿 開催

8月21日(木)から8月23日(土)にかけて、「やまぐち地域医療セミナー2014 in 美祿」が開催されました。このセミナーは、医学部の学生さんに美祿市の地域医療を担う医療機関において地域医療を体験してもらい、地域の生活環境を実感することで、地域医療マインドを高め、地域医療の分かる医療人の育成に寄与することを目的として開催されました。

山口大学10名、自治医科大学12名、高知大学1名の参加があり、当院では、コメディカル体験コースに3名、臨床検査コースに4名、病院見学コースに5名の学生を受け入れ、ドクターカー搭乗、脳卒中の臨床検査シミュレーション、薬剤師業務などを体験してもらいました。

文責 薬剤科 三春 安啓



今回、セミナーに参加された2名から感想を頂きましたのでご紹介します。

この地域医療セミナーは、大学で病院実習の行っていない低学年の学生にとっては、はじめて患者さんと触れ合ったり、血圧測定や聴診器での身体診察などはじめて医療行為を行える場所です。また、間もなく地域の病院で働く高学年にとっては、先輩たち医師がどうやって地域に関わっているか、地域の方々はどういった医師を待ち望んでいるのかを知れるまたとない機会であります。

医学は「book reading」ではなく、「patient reading」つまり、本から学ぶのではなく、患者さんから学べと言われます。これは地域医療にも同じことが言えると思います。授業や講演などで地域医療について学ぶことも大事ですが、その地域に自分自身で行き、その地域の方々に話しを聞く方がより大事で心に残ると思います。

今回のセミナーでは、高橋先生、金子さんをはじめ、市の方々に本当にご尽力いただきました。学生代表として改めて、心より感謝申し上げます。素晴らしいセミナーにして頂きありがとうございました。

山口大学4年 Y. T

一日目はドクターカーコース、二日目は健康教室コース及び訪問診療コースに参加しました。

一日目は美祿市消防署にお伺いしました。通報はなく、模擬救助を見学しました。救急・救助活動の具体的な流れを初めて知り、将来搬送を受ける側になった際に生かしたいと思いました。美祿市の地理的特性と医師不足の関係で搬送先選択が難しいことや、道路整備により事故が激減したことなどを学びました。

セミナー期間中のご講演では、美祿市だからこそできることを見出し実践していらっしゃる演者の熱い思いを感じました。在宅医療は志ある人の意欲に支えられている、という訴えが特に心に残りました。多くの先生方から教えていただいたことを糧に、自分なりの『トノサマガエル』を探して、将来何をなすのか考えていきたいと思っています。貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

自治医科大学5年 T. M

看護研究全国学会に参加して

今回、8月29、30日に熊本県で開催されたヘルスプロモーションの全国学会に参加し、パネル発表をしてきました。2年間という短い研究期間でしたが、たくさんの方々の御指導・御協力のもと、無事に発表を終えることができました。

学会では、ヘルスプロモーションということもあり、保健師・教員・学生などの参加があり、多くの学びを得る機会となりました。また初めての学会参加でしたが、企画されている方々がとても暖かく接して下さったおかげでスムーズに発表を行うことができました。

今後もこのような機会があれば参加したいと思います。

2階病棟 山田美也子、山崎純子、山岡幸子

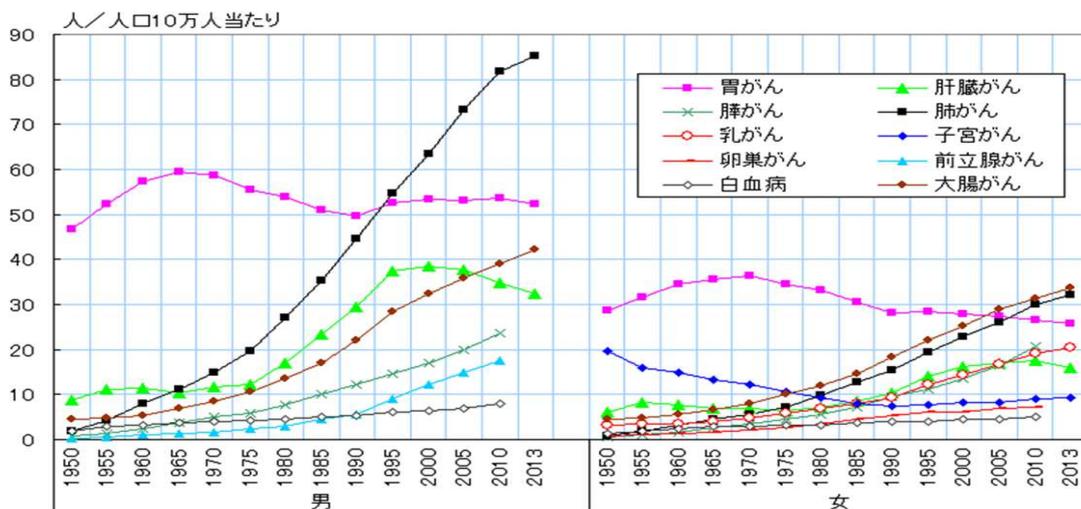
美祢市医師会から



藤村内科クリニック 藤村 寛

今回は、胃癌についてお話しします。皆さん御存知のように日本人の胃癌患者数は年間約10万人と悪性新生物の中で最も多いものです。しかし、胃癌死者数は下降の一途を辿り男性は肺癌に次いで第2位、女性では大腸癌、肺癌に次いで第3位となっています(図1)。これは胃癌の治療が進歩し、死者数が減少したことを示しています。化学療法や外科治療の向上もさることながら、内視鏡を用いた早期胃癌治療も見逃せません。内視鏡を用いた早期胃癌の治療には粘膜切除術(EMR)と粘膜下層剥離術(ESD)があります。これらは胃内腔から癌を取り除くもので、胃の周囲のリンパ節や胃壁の深い所までは取り除けません。潰瘍のない2cm以下で分化度の高い粘膜内癌が絶対的な適応ですが、最近ESDの発展により拡大適応(潰瘍のない2cm以上の分化型粘膜内癌や潰瘍を伴う3cm以内の分化型粘膜内癌や2cm以内の未分化癌)も試みられています。いかにせよ、早期の胃癌でなくては内視鏡治療は出来ません。早期胃癌は自覚症状がないため、その発見には定期検診が必要です。

主な部位別がん死亡率の推移



(注) 肺がんは気管、気管支のがんを、子宮がんは子宮頸がんを含む。大腸がんは結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸のがんの計。

(資料) 厚生労働省「人口動態統計」

図1

次に、美祢市の胃癌検診の現状について、最近5年間のデータがまとまりましたので報告します。

美祢市の胃癌検診は従来胃透視検査(バリウム検診。これには、集団で公民館等で受ける集団検診と個人個人が病院や診療所で受ける個別検診があります。)でした。平成25年から胃内視鏡検診(カメラ検診。これは個別検診のみで集団では行っていません。)を開始しています。

受診者数は、平成21年度1709例(集団1190、個別519)、平成22年度1545例(集団1067、個別478)、平成23年度1425例(集団1037、個別388)、平成24年度1277例(集団963、個別314)と逐次減少していましたが、平成25年度から内視鏡検診が加わり、胃X線検診916例(集団752、個別164)と内視鏡検診851例、総計1767例と増加していました。発見された胃癌数については、平成21年度5例(早期3、進行2)、平成22年度2例(早期1、進行1)、平成23年度5例(早期5)、平成24年度2例(進行2)、平成25年度5例(早期3、進行2)でした。内視鏡検診の導入により、受診者数の増加や胃癌発見率の向上が期待される結果でした(図2)。



図2

全国的にみても検診で発見された癌の6割~7割は早期癌で、これは治療により90%以上完治します。残りは進行した状態でみつかりますが、この人たちも、手術を受ければ6割以上が完治します。すなわち、検診で発見された胃癌は、85~90%が完治します。胃癌で死なないためには、まずは、検診を受けることが重要と考えられます。

臓器移植研修会開催

2010年の「臓器移植法」の改正により、本人の意思が不明でも家族の承諾があれば臓器の提供が可能となりました。これにより、15歳未満でも脳死後の臓器提供が可能となり、同年8月には、改正臓器移植法施行後初の家族承諾のみでの脳死下臓器提供が行われ、2011年4月には、初の小児（15歳未満）の脳死下臓器提供が行われ大きく報道されました。このように、日本の移植医療が大きく変化していくなかで、当院に働く職員に対して、「移植医療」と「当院の役割」の理解を深める



目的で7月25日に研修会を開催しました。公益財団法人やまぐち移植医療推進財団熊野佳美山口県臓器移植コーディネーターからは「日本の移植事情」についての講演がありました。移植医療の歴史・臓器移植とは・臓器提供とは、など移植医療の基礎からのお話があり、強調されたのは、「臓器移植に関する権利」についてでした。臓器移植に関しては、一人ひとりが4つの権利を持っています。死後に臓器を「提供する」「提供しない」あるいは「移植を受ける」「移植を受けない」という権利であり、どの考え方も等しく尊重されます。死後の臓器提供については、自分で決定できる権利となっていますが、最終的には必ず家族の承諾が必要となるので、大切な家族と話し合い、意思について伝え合っておくことが大切だとお話されました。

山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学分野の准教授内山浩一先生からは「腎移植の適応と方法」をテーマに講演がありました。移植の種類・腎移植の治療成績から移植までの具体的な手順などが示され、未経験の移植医療に対して理解を深めるためのよい機会となりました。

8月5日には山口県移植医療に関するワーキンググループ第7回会議へ参加しました。この会議は、山口県下20施設63名と財団関係者7名の総勢70名が参加した会議でした。ご本人やご家族から臓器提供の申し入れがあった場合、様々な手続きや連絡、確認が必要となります。ワーキンググループでは当院で臓器提供の申し入れがあったとの想定で、臓器移植までのシミュレーションを美祢市立病院臓器移植委員会メンバー中心に行ってきました。シミュレーション後他施設の参加者から、自分たちの役割などが理解できたとの良い評価をいただきました。



当院の委員会メンバーもそれぞれの具体的な役割を熟知しておらず、今回のシミュレーションは今後の移植医療への大きな自信となりました。

文責 臓器移植委員会 前田美津子

薬剤科病院実習お疲れ様でした



当院薬剤科に、広島国際大学の学生さんが5月12日から7月25日の11週間実習に来られました。実習を終えての感想をいただきましたのでご紹介します。

11週間の病院実習は、長いようでとても短く感じました。学校では学べない、病院の現場での薬剤師の役割や、その責任について学ばせていただきました。チームの中で活躍されていたり、他職種の方からの薬についての相談に答えている薬剤師の先生方を見て、将来自分が薬剤師になったときには患者さんだけでなく、他の医療従事者にも信頼される薬剤師になりたいと感じました。

あたたかく実習を受け入れてくださった病院の方々や、大変お忙しい中、たくさんの事を教えていただいた薬剤科の先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ここで学んだことを忘れずに、立派な薬剤師になりたいと思います。本当にありがとうございました。

広島国際大学5年 H.N

かかりつけ医等研修会開催

かかりつけ医や保健医療福祉分野における相談支援に従事されている職員等が自殺のハイリスク要因であるうつ病等に関する知識を得ることで、うつ病の早期発見・早期対応及び関係機関による連携支援の充実により、自殺対策の推進を図ることを目的として、当院で研修会が開催されました。

最初に山口県宇部健康福祉センターの職員から「管内の自殺の現状と課題」に関する説明があり、その後、山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学分野教授 渡邊義文 先生が「うつ状態の理解と対応」と題して講演されました。今回の講演では、うつ状態とうつ病の臨床症状について分かりやすく解説していただきました。また、美祢市内の医療機関等の職員の方が多数参加され聴講されました。



文責 岡崎 輝義

接遇研修会開催

9月18日（木）に、社会福祉協議会会長の弘利真勝様をお迎えし、「医療者（宗教者）としてのいのちを考える」と題して、ご自身の入院経験や元美祢市立病院事務長、社会福祉協議会会長、浄円寺の住職としての色々な立場での経験や感じたことなどをお話していただきました。

「生きている」という自分本位な考え方ではなく、人を含めすべてのいのちはそれぞれが関わり合うことによって他のいのちに「生かされている」「おかげさま」という思いがあれば、争いごとや犯罪などは起こらないのではないか、と話されていたのが印象に残りました。

物事の考え方やいのちとの向き合い方、経験を仕事や人生にどう活かしていくか、考える良い機会となりました。

文責 戒井 安徳

栄養給食委員会報告

9月25日（木）、栄養給食委員会にて非常用備蓄食品の作り方の確認、試食を行いました。

当院では、災害時または食中毒発生時に厨房が使えなくなったときのために、備蓄食品を3日分準備しています。

非常時には、厨房職員以外の職員も入院患者さんの食事の準備をしなければならない可能性があります。この日は賞味期限切れ間近の備蓄食品を使って、栄養給食委員を中心に実際に作ってみました。非常時の食事について考えるいい機会になったと思います。

文責 栄養科 立野 裕美



看護部リレー随筆



3階病棟 川本真理

今年の夏は雨が多く、梅雨のような毎日でしたが、天気に関係なく毎年この時期になると悩まされることがあります。それは夏休みの宿題です。なかでも一番頭が痛いのは『自由研究』です。自分が子供の頃もかなり悩まされましたが、自分が親になって悩まされる『自由研究』は威力が増して襲いかかってきます。我が家は中学3年と1年の子供が居ますので、もう9年間『自由研究』と戦い続けています。子育ての先輩方は「過ぎてしまえばあっという間」と慰めて(?)くれますが、真っ最中の人間にとっては苦痛でしかありません。とりあえず、今年も何とかお粗末な自由研究が出来上がり、夏休みも終わりました。ただ、生まれた時から両親が交替勤務でろくに遊びにも連れて行けず、夜勤のたびに祖母の家に預けていた親に、文句も言わず毎年頑張って仕上げる宿題は私にとっては花マルをあげられる物だと思っています。

知 っ て 得 す る 病 気 の 話

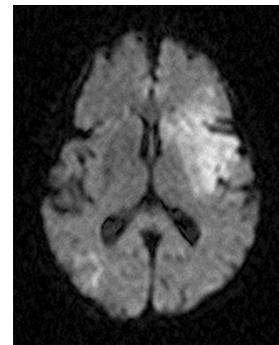
～心房細動と抗凝固療法～

【はじめに】心房細動は脈拍がてんでばらばらに乱れている不整脈です。



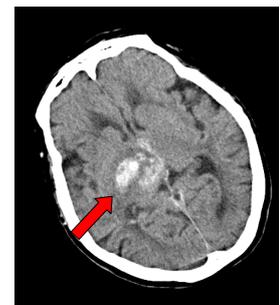
心房細動の方は、高血圧症・糖尿病・心不全・一過性脳虚血発作の既往を含めた脳梗塞・年齢など、併せ持った危険因子の数に応じて、心房

内に血栓が出来やすくなります（➡）。この血栓が剥がれて飛んでしまうと、飛んだ先々で動脈を詰まらせます。脳の動脈に起こってしまうと脳梗塞（脳血栓塞栓症）になります。脳血栓塞栓症は重篤なことが多く、予防がとても大切です。



【予防治療】予防には3つあります。1つは心房細動そのものを起こし難くするカテーテル治療です。2つ目は、原因となる高血圧症や糖尿病など合併疾患をより良い状態にすることで、心房内の血栓を生じ難くする治療です。3つ目が標題にあります抗凝固療法です。抗凝固療法は塞栓症の原因となる血栓を、より直接的にできなくする治療です。ただ、抗凝固療法は血栓を作らせない反面、様々な出血性合併症が生じやすくなります。その代表が脳出血です（➡）。心房細動の方は、脳血栓塞栓症を起こし易い面と脳出血も起こし易い面の両方を抱えておられることが殆どです。

【新しい抗凝固薬】現在、日本国には従来からあるワーファリン®と非ワーファリン系の新しい抗凝固薬4剤（NOAC）、計5剤の抗凝固薬があります。ワーファリン®と異なるNOACの共通する良い点は、納豆や緑黄色野菜の摂取など食事内容に影響を受けにくいこと。慢性硬膜下血腫などの頭蓋内血腫が相対的に重症化し難いことなどがあります。逆に、ワーファリン®に比べ、患者さんの腎臓の働きに見合わない量では重篤な出血が生じ易くなることなどがあります。



【まとめ】心房細動に伴う血栓塞栓症を予防しつつ、出血を起こさないようにするために、患者さんお一人お一人に合わせたより良い治療を選択することが可能となっています。そのためにも普段から定期的に医療機関を受診され、主治医の先生と良く御相談されることがとても大切と存じます。

以上です。

(救急運営委員会・内科 李 博文)



今月の料理



★筑前煮

<材料（2人分）>

鶏もも肉	150g
干し椎茸	2枚
ごぼう	20cm
こんにゃく	1/2枚
里芋	300g
にんじん	小1本
れんこん	5cm
きぬさや	少量
サラダ油	大さじ1

A	干し椎茸のもどし汁	
	+だし汁	2L
	醤油	大さじ3
	砂糖	大さじ2
	酒	大さじ1
	みりん	大さじ1



<作り方>

- ① 鶏肉は適当な大きさに切って軽く塩を振る。
- ② 干し椎茸はたっぷりの水でもどし、石づきを除き千切りにする。ごぼうは5mm幅の斜め切りにして水にさらす。こんにゃくは格子切りにして一口大に切り、水から茹でて沸騰したらザルにあげる。
- ③ 里芋はよく洗い、大きいものは半分に切る。塩で揉んでぬめりを取り水洗いする。にんじんとれんこんは皮をむいて乱切りにする。れんこんは水にさらす。
- ④ きぬさやは筋を除き、さっと塩茹でて、斜め半分に切る。
- ⑤ 鍋にサラダ油を中火で熱し、鶏肉を皮目から焼く。
- ⑥ ⑤の鍋から鶏肉を取り出し②を加えて炒める。油がまわったら③を加えてさっと炒め、鶏肉を戻し入れる。
- ⑦ Aを加えて強火にし、煮立ったらアクを除く。落とし蓋をして弱めの中火で20分煮る。木べらでやさしく全体を混ぜ、みりんを加えて強火で煮絡める。
- ⑧ 具だけ取り出して盛り付ける。残った煮汁は強火で煮詰める。つやがでたら具にかけ、きぬさやをかざる。

食堂より

冷夏と雨の異常気象だった夏も終わり、さわやかな秋の訪れです。写真は美祢産コシヒカリの新米と厚保栗の栗ごはんです。また筑前煮の野菜も地物です。新物の秋刀魚で楽しんでください。

季節の花を生けています

外来トイレ入り口横のスペースに、医療事務研究会の外谷清海さんが、ボランティアでお花を生けてくれています。毎回趣向を凝らしていけられており、ふと足を止めてしまいます。皆様も御来院の際、また診察の待ち時間等にぜひご覧ください。



文責 戎井 安徳

コーヒーカップも花瓶に早変わり！



編集後記

雨が多かった夏とは打って変わり、気持ちのいい秋日和が続いています。この時期は空気も澄んでいて、空の青さがとても美しいですね。とは言え、朝晩少しずつ肌寒くなり、空気の冷たさに秋の深まりを感じるこの頃です。秋と言えば 読書の秋、スポーツの秋、行楽の秋、食欲の秋等いろいろありますが、私はもっぱら食欲の秋。先日も知人からたくさんの梨を頂き、秋を満喫しながら食しています。(T. U)

美祢市立病院診察日程表

平成26年10月1日

	月	火	水	木	金
初期診療	/	古賀 靖 卓	/	/	/
(受付時間)		8:15~16:30			
(診察時間)		8:45~			

内 科	山村泰世 (循環器系)	李 博文 (循環器系)	山村泰世 (循環器系)	李 博文 (循環器系)	山村泰世 (循環器系)
	田部勝也 (血液・内分泌系)		花園忠相 (消化器系)		篠田崇平 (消化器系)
外 科	本間喜一	岡田敏正	田中昭吉	田中昭吉	本間喜一
(受付時間)	8:15 ~ 11:30				
(診察時間)	8:45 ~				

脳神経外科	白尾敏之	松永登喜雄	松永登喜雄	古谷泰浩	松永登喜雄
(受付時間)	8:15 ~ 11:30				
(診察時間)	10:00~	8:45 ~			

泌尿器科	磯山直仁	/	岡真太郎	/	藤川公樹
(受付時間)	8:15~11:30		8:15~11:30		8:15~11:30
(診察時間)	9:15~		10:30~		9:15~

整形外科	徳重厚典	/	富永康弘	/	小笠博義
(受付時間)	8:15~11:30		8:15~10:30		8:15~11:30
(診察時間)	9:00~		9:00~		9:00~

耳鼻咽喉科	松田嘉子	松田嘉子	下郡博明	松田嘉子 (第1・3・5週)	下郡博明
(受付時間)	8:15~15:00	8:15~11:30	8:15~15:00	8:15~11:30	8:15~15:00
(診察時間)	13:00~	8:45~	11:00~	8:45~	14:00~

眼 科	柳井亮二	/	/	小林正明	/
(受付時間)	8:15~16:00			8:15~11:30	
(診察時間)	13:00~			9:00~	

小 児 科	午前：飯田恵庸 (小児一般)	午前：梶本まどか (小児一般)	午前：前場進治 (新生児・発育・発達)	午前：長谷川俊史 (アレルギー)	午前：工藤敬子 (未熟児・新生児)
				午後：脇 和之 (内分泌)	午後：前場進治 (新生児・発育・発達)
	(受付時間)	8:15~11:30	8:15~11:30	8:15~11:30	8:15~11:30 13:00~16:30
(診察時間)	9:00~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00	9:00~12:00 14:00~17:00	9:00~12:00 13:30~16:00

◆ 予防接種及び乳児健診 (要予約)

午前：月～金曜日 (10:30～11:00) 午後：木曜日 (14:30～16:30)、金曜日 (14:00～15:30)

皮膚科	/	/	一宮 誠 (第2・4週)	/	/
(受付時間)			8:15~14:30		
(診察時間)			13:00~		

精神科	/	中野雅之	/	/	/
(受付時間)		13:00~15:00			
(診察時間)		13:30~			

◆ ただし、院内紹介患者のみの診察となります。

【注意事項】

- ・ 診察医は都合により変更する場合があります。(総合受付・外来受付に掲示)
- ・ 診察の順番は受付順ですが、検査の都合または呼び出し時不在の場合、順番が前後する場合があります。